

作成番号:0275

一般社団法人 日本侵襲医療安全推進啓発協議会 「会員向けメールマガジン」

号数:2025-275

内容:米国で中絶禁止法導入州で乳児死亡率が上昇

出典:US Abortion Bans and Infant Mortality.

JAMA. 2025 Feb 13; pii: e2428517.

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/39946113/>

中絶禁止法が乳幼児の健康における人種的・民族的格差とどのように相互作用するか不明である。最近の中絶禁止法の施行が乳児死亡率に及ぼす影響について、米国・ジョーンズ・ホプキンス・ブルームバーグ公衆衛生大学院の研究者らが JAMA 誌オンライン版 2025 年 2 月 13 日号に報告した。

2012 年 1 月～2023 年 12 月までの全米 50 州およびコロンビア特別区(ワシントン)の出生および死亡証明書のデータから、生後 28 日未満の新生児および生後 1 年未満の乳児の死亡数、ならびに出生総数を半年ごとに集計した。主要アウトカムは乳児死亡率(1,000 出生当たり)で、全集団および人種/民族別、死亡時期別(新生児期 vs.それ以外)、死因別(先天異常 vs.それ以外)に算出した。中絶禁止を法的に導入した 14 州の乳児死亡率を、中絶禁止を法的に導入していない州の乳児死亡率ならびに当該 14 州の中絶禁止法施行前の乳児死亡率に基づく予測値と比較した。

中絶禁止法を導入した州では、施行後の乳児死亡率が予測値よりも高かったことが判明した(予測値 5.93 vs.実測値 6.26[/1,000 出生]、絶対増加:0.33[95%信用区間[CrI]:0.14～0.51]、相対増加率:5.60%[95%CrI:2.43～8.73])。この結果、中絶禁止法が導入された 14 州において、中絶禁止が影響した期間の乳児の過剰死亡は 478 例と推定された。非ヒスパニック系黒人集団では他の人種/民族集団と比較して乳児死亡率の上昇が大きかった。

米国において中絶禁止法を導入した州では、施行後の乳児死亡率が、施行前の乳児死亡率に基づく予測値と比べて上昇したことが明らかにされた。乳児死亡の相対増加率は、先天異常による死亡で大きく、黒人や南部の州などベースラインの乳児死亡率が平均より高い集団でも大きかった。

米国の中絶規制の現状

※米紙ワシントン・ポストより

